

地域医療連携だより

切れ目のないがん医療を

第2回がん地域医療連携を考える会 開催



地域がん診療連携拠点病院である京都岡本記念病院と宇治徳洲会病院の共催で「第2回がん地域医療連携を考える会」が2022年11月12日に、会場(おかもとホール)とWEBのハイブリッドで開催されました。

これは山城北医療圏で切れ目なくがん医療を提供するため、行政、病院、診療所、調剤薬局、施設、在宅介護、訪問看護などの連携強化を目的とするものです。

当院では2009年から2013年まで医療従事者研修事業の一環として「がん地域医療を考える会」を開催してきました。その後も「山城北がん診療共同研究会」など形態を変えつつ継承してきましたが、昨年度からはさらに充実を図り、「第1回がん地域医療連携を考える会」として新たなスタートを切りました。

2回目となった今回は、医師、看護師、社会福祉士、介護支援専門員など所属や職種の垣根を越えた約100人にご参加いただきました。

京都府山城北保健所 所長 四方 哲氏、綴喜医師会 会長 安田美希生先生と宇治久世医師会 会長 堀内房成先生からごあいさつを賜り、コロナ禍のがん診療をテーマに、京都府健康対策課からの報告、

病院の立場から2題、在宅診療の立場から2題、訪問看護の立場から1題と、6つの講演が行われました。

講演後の意見交換では、病院と在宅との連携のタイミングやコロナ禍での今後の課題などについてWEB参加者からも活発な意見が交わされ、今後の連携につながる貴重な機会となりました。

参加くださった皆さま、ありがとうございました。同会は今後も継続して開催していく予定です。今回、参加できなかった方も次回はぜひご参加ください。



京都府健康対策課 参事
四方 啓子氏
「京都府のがん対策」



宇治徳洲会病院
消化器外科 医長
我如古 理規先生
「当院での切れ目のない
がん診療」



京都岡本記念病院
消化器外科 副部長
山本 芳樹
「当院緩和ケアチームの在宅
医療との連携について」



じんのクリニック 院長
神野 君夫先生
「在宅での看取りについ
て」



小川医院 院長
小川 智先生
「コロナ禍での看取り、
八幡市からの報告」



訪問看護ステーションエイト
所長 服部 由衣氏
「コロナ時代における在
宅看護の看取りの変化
について」

